

第9回 番組審議会議事録概要

1. ◆開催日時

平成30年4月16日(月) 午前12時より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 杉浦克昭、藤原庸介、竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、林香里

株式会社サテライト・サービス

清水賢治、岡崎洋三、峰岸淳、窪田正利、五百城重典、松永正隆

株式会社フジテレビジョン

門澤清太、永竹里早、鹿内植

株式会社ジュピターテレコム

高木明夫、森井 健策

ディスカバリー・ジャパン株式会社

道井隆之、松本ちえこ

株式会社スペースシャワーネットワーク

光岡太郎、栗花落崇、小林麻衣子、藤島克之、市川雄規

4. 議題

1) 「サバイバル・男気クッキング」ep“ブルガリアー山脈”

ディスカバリー・チャンネルで放送

2) 「ローカリズム」まとめスペシャル

スペースシャワーTVで放送

3) 報告事項 「東経110度衛星基幹放送業務認定について」

「委員の交代について」

代表取締役社長 清水賢治 から

110度衛星放送は変化の年。昨年秋に募集された110度CSの12スロットHD化に伴う帯域再編の審査結果が先週、総務省から発表された。また、年末にはBSとCS左旋での4K試験放送が予定されている。サテライト・サービスから申請していた「Mnet」と「スペースシャワーTV」の2チャンネルが認定された。今後、番組審議会の議題となるのでよろし

くお願いします。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

「サバイバル・男気クッキング」

- ・企画としては面白い
- ・料理が美味しいかどうかメインではなく、急所を一発で仕留めるのが大事など、見てて楽しいところがあった。
- ・美味しくなさそうだけど楽しく見れた。
- ・見ながら、子供のころは近所で鳥を絞っていたことを思い出していた。
- ・今は肉といったら薄いものがでてくる。我々の薄っぺらな肉食へのアンチテーゼを感じた。
- ・デジタルな現代に対してアナログ的なものになっていた。
- ・スポーツとしてのハンティングがある国とない国の違いが出て、ディスカバリーならではの、ここまで来たかと感じた。
- ・10世代くらい前はこんな暮らしだったんだな、と感じた。
- ・文化とはなんだろう。エキサイティングだった。
- ・テロップは何か所か不親切。マニアックな人だけではなく、たくさんの人に見てもらおうようにすべき。
- ・映像が特に素晴らしい。映画じゃないかという綺麗な映像だった。
- ・栄養学・動物学・地質学など多岐な視点が役に立った。
- ・サバイバルのノウハウが出てくるなど、新しいことを知ることができた。
- ・解体するような生々しいシーンはなかったが、日本の視聴者が見て、受け入れてもらえるのか。クレームが来る可能性などに対して、どういうプロセスで判断しているか気になった。
- ・サバイバルしているのはジャングルではなく普通の退屈な生活であり、こういう場所こそ男気を出せる。
- ・男性性が否定された中で、ここで発揮できるノスタルジーを感じた。
- ・文明を肯定しながら否定する番組。ジェンダーも盛り込んでいた。
- ・流行っているグルメ番組への批評、肉食文化がベースにないとできない番組だった。
- ・狩猟文化が根底にある。われわれが日常的に見ている番組とは違う。

委員からの意見に対し制作サイドから（ディスカバリー・ジャパン 松本ちえこ）

- ・たくさんの地域をカバーできるように、撮影場所は毎回違う。天候も地域によって違う。
- ・今回は「獲物が取れない」が一番のテーマ。
- ・編成として議論したのは「生き物を殺してもいいのか」という点。
- ・クレームはなかったが気を付けている。

- ・アジア全域の基準として血を見せない、解体を見せないという方針で編集されている。
- ・テンポ感も含め、日本独自の編集ができないか検討している。
- ・訴訟リスクは出演者がロケ後に健康被害が出る可能性を想定。ケアはしている。

「ローカリズム」

- ・冒頭の会話が長くて目的の場所に着くまでが長くダラダラしていると感じた。
- ・福井編と言われても鯖江＝福井県に違和感がある。鯖江の魅力が伝わったか疑問。
- ・この番組の目的はなんだろう。ゲストの「レキシ」を伝える番組なのか、(育った街)鯖江を伝える番組なのか？なぜか人が出てこない。人が出てこないのが物足りない。
- ・目的がはっきりしない番組だな、と感じた。
- ・音楽は今まで耳で聞くものであり、家庭で音楽を見るものではなかったが、いまではこういう番組でもアーティストを取り上げるようになり、アーティストのプロモーション手法も、だんだん独自のものになっていく。
- ・専門チャンネルとはいえ出演者に知名度がないので解かるのは一握り。専門的な番組、高橋さんに寄った番組だと思うが「レキシ」を掘り下げてほしかった。
- ・アーティスト同士なのに音楽的セッションがなかった。
- ・レキシさんのテーマ性や目的性を打ち出した方がいいのでは？
- ・ゆるいけど、若者世代にはこの話し方がそんな感じなのでは？
- ・好意的に考えれば、ダラダラしているのは逆に狙ってるのでは。(笑)

委員からの意見に対し制作サイドから (スペースシャワーTV・光岡太郎)

- ・通常30分の番組をまとめたスペシャルバージョンなので、同じ話が2回出てきたりした。
- ・この番組としては、アーティストの素顔に迫るのが一番の目的。
- ・生まれ育った地方に行き、そこで出てくる素顔を見る番組。
- ・レキシについてわからなかったのは改善していく。
- ・レギュラー番組を持っているレキシ自体がスペシャから生まれたので、スペシャ的にはなじみのある人。なので、スペシャファンによく見られているのであろうライブや演奏より、ここでは素顔に割り切った。

報告事項

「東経110度衛星基幹放送業務認定について」

- ・サテライト・サービスから申請していた「Mnet」と「スペースシャワーTV」の2チャンネルが12スロットHDとして認定された。

「委員の交代について」

- ・杉浦克昭委員、林香里委員が本日をもって退任。長い間ありがとうございました。

・新しい委員については、承諾をいただいた段階で報告します。

次回予定 平成 30 年 10 月 22 日（月）12 時から

議題はフジテレビ NEXT とアニマルプラネットの番組の予定。